部活動の実態と現状における問題点からみる今後の部活動のあり方について

The ideal method of future club activities judging from problems in the actual situation and the present conditions of club activities

1K05B205　　前田　大介
指導教員　　主査　倉石平先生　　副査　吉永武史先生

2008 年現在、233 万 9000 人の中学生が参加している部活動は、日本では、スポーツ普及とスポーツ競技者育成の場として学校組織の中で古くから定着してきた。しかし、1990 年代後半から部活動は変化を余儀なくされる。子供の少子化、顧問教師の高齢化などの問題により今までのように部活動を運営していくことが非常に困難な状況になったためである。これらの課題に対応するために部活動は変化を始めている。これを「部活動改革」と呼び、様々な改革が試みられている。だが、すべての課題に対してマッチする具体的な対策は未だにできていないのが現状である。スポーツの普及と育成の場を担う部活動を存続させるために、具体的な対応策を考えることが急務であると考える。

＜研究背景＞

今回、部活動の現状と問題点についての論文を書こうと考えたのは私自身が現在の部活動に感じた違和感からであった。私は、昨年から中学バスケットボール部の外部指導員をしている。その中で、部活動に活気がないと感じたのである。その原因はどこからくるものか考えると顧問教師の部活動に対するモチベーションの低さからくるものであることがわかった。私は他の学校も同じような状況なのかと不安に駆られた。現在の部活動がどのような状況にあり、子供がスポーツをするのに適切な環境にあるのか。部活動の現状について調べることにしたのである。

＜研究目的＞

部活動の現状について、「生徒」「顧問教師」「保護者」の 3 つの視点で考えていくことにする。次に、現状から浮き彫りになった問題点を考えていき、それに対する解決策にどのような策が打たれているのか考える。その解決策を踏まえた上で部活動の今後の展望について考えていく。

＜研究方法＞

部活動の実態と現状における問題点について、本、論文、インターネットの文献を調査する。

＜結果･考察＞

「生徒」「顧問教師」「保護者」の視点で実態について考えていき、出てきた問題点としては、1)「少子化による部員確保の困難とそれに伴う部活動数の減少」、2)「様々な理由からくる適切な部活動指導者の不在」、3)「生徒と顧問教師の部活動に対する考え方の違いから生じるズレ」、4)「部活動熱心の顧問教師の部活動にしかない保護者会」が考えられる。1)、2)に関しては具体的対策として、「合同部活動」「合同チーム」、「外部指導員制度」が確立されている。

これら 3 つの取り組みを導入する部活動は年々増えてきている。3)に関しては、子供と顧問教師の部活動に対しての考えの違いからくる問題であり、顧問教師は子供が望んでいることを優先して部活動について考えなければならないと考える。4)に関しては、現状の保護者会は部活動熱心な顧問教師の部活動にあることが多く、逆に、部活動に対しコミットメントが低い顧問教師の部活動では少ないのが現状である。現在の保護者

会は顧問教師をサポートするためにあるわけではない。

すべての部活動において保護者会ができるような仕組みが必要であると考える。4 つの問題を解決するためには学校が地域の力を借り、連携していくこと必要不可欠である。今後の、部活動の展望としては、地域の力を借り、学校の中で部活動をするという方法と学校から部活動を完全に切り離し、地域の社会教育としてスポーツ活動を行う方法があると考える。学校の中でスポーツをすることで、スポーツ的価値と教育・道徳的価値の矛盾が起こってしまうことを考えると、学校から完全に切り離し、地域でスポーツ活動を行うほうが今後において適しているのではないかと考える。今後の研究課題としては、地域の人々にスポーツ指導をすることができる人がいるのかということや保護者が地域に移行することに対して協力してくれるのかなどを調査する必要があると考える。